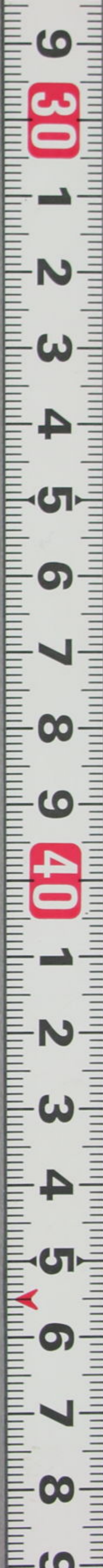




金龜山  
三子喜源  
辛巳年

^ 13  
3838  
8



志  
海  
物  
記

三  
拾  
一  
編

三  
拾  
二  
編

門 へ 13  
號 3838  
卷 8



菊壽堂梓

上乃手書き移りたる二十一日  
正





圓  
貞  
堂

舞  
臺  
中

三十一編下

廣  
島  
松

志  
奴  
心

福

三十一編上

下  
道  
曲  
多  
因



歌川國貞画

廣幸  
壽梓



柳下亭種員作

物語

三十一編下

三十二編上



白  
縫



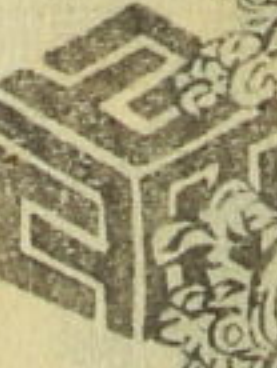
ついでに廿二編



凡神史の人名僕が如き拙著おも此の寓意あるを能く以て春之助の青柳  
 玄之丞の山鹿等都々筑前の地名を粟と鳥との韻等なれ鳥山ハ  
 此のこゝれと幼名犬千代といふを問者あるに答ふる語も犬櫻犬蓼乃  
 例も引き申の年度揃しといふ素楡軒の子某と後小舟段あるは  
 確執猿犬もく号たりとも亦道らるる但于支の酉戌の次キ  
 亥の續をとる臆病者の秋作が後摩利支天の勇力を現は  
 深意を隠したりと牽強するが自己より可笑く這漫言を  
 誌しし序とす

庚申中夏吉辰

柳下亭種員



あつぬを  
 ちのころ廿二編の下



柳下亭種員作

歌川國貞畫

廣幸版



市原綾機  
あやらの  
あやたて

七草四郎年忠  
若菜姫の學び  
外道の法を  
習練する圖



豊國丸

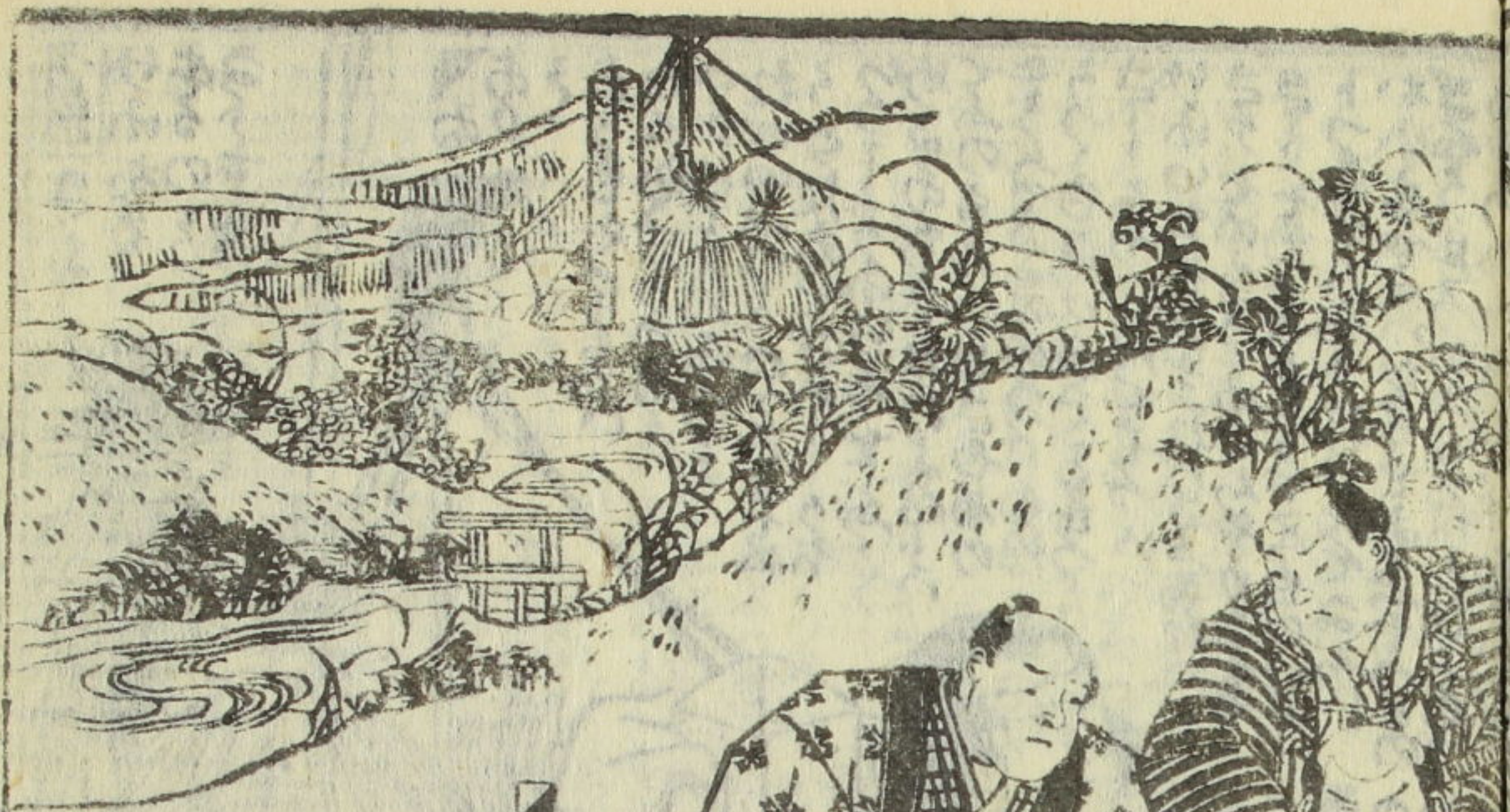












■まびら  
 のまひら  
 をこつて  
 かへつて  
 とつて  
 のまひら  
 うまひ  
 小まひ  
 さりとも



かまひ  
 のまひ  
 うまひ  
 小まひ  
 さりとも

かの  
 のまひ  
 うまひ  
 小まひ  
 さりとも



かまひ  
 のまひ  
 うまひ  
 小まひ  
 さりとも

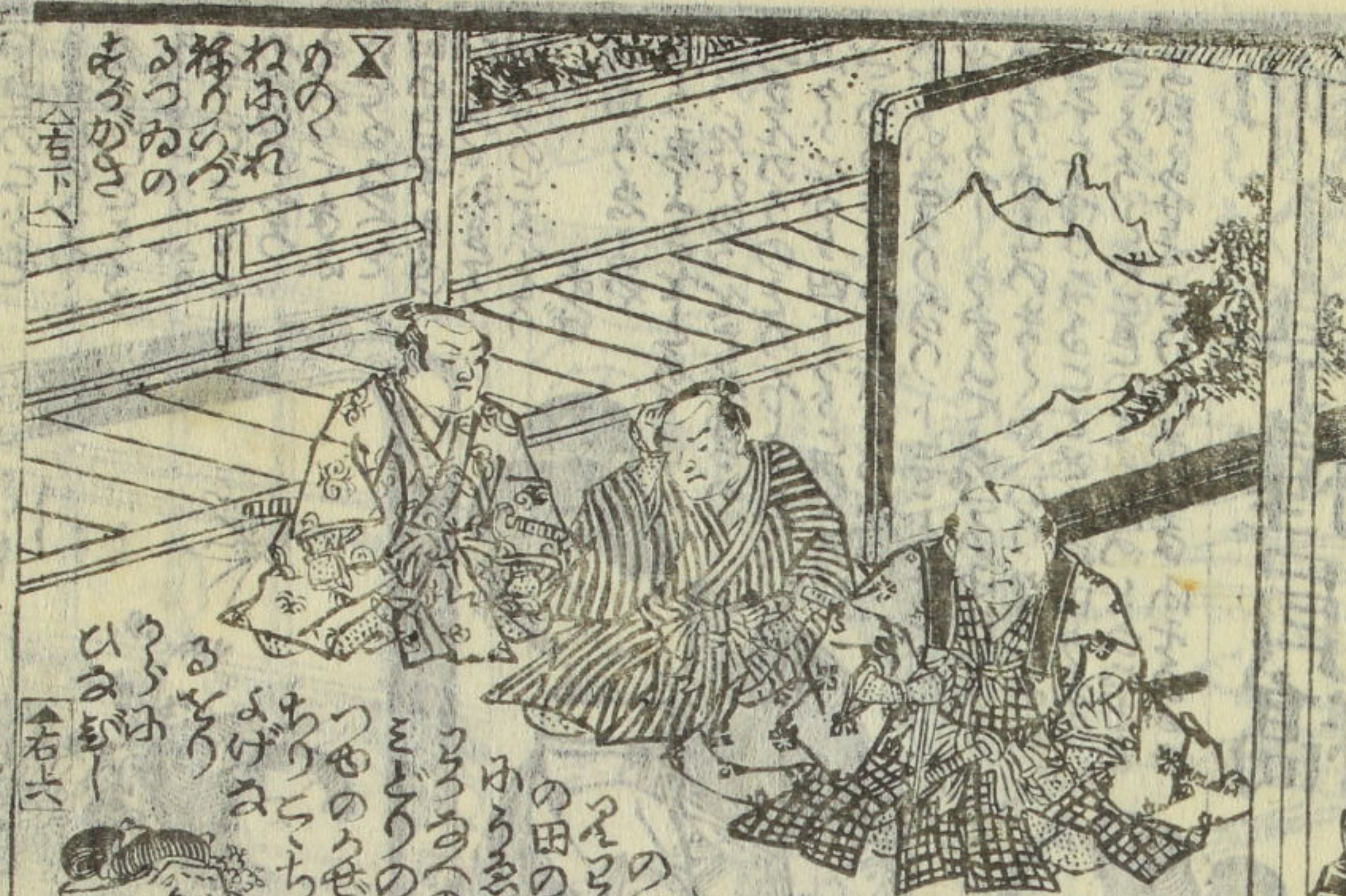
第十一号

第十一号

十一







のめ  
 ねあつれ  
 梅うらつ  
 ぶつわか  
 まるかき  
 吉下八

ひまぢい  
 ちんちん  
 つのうせふ  
 ちりちり  
 あらら  
 の田のめ  
 ひらま  
 のいのち  
 のいのち  
 のいのち  
 のいのち



吉下六  
 のまほ  
 けいけ  
 ああ  
 のいのち  
 のいのち  
 のいのち  
 のいのち

吉下八編



吉下  
 のいのち  
 のいのち  
 のいのち

ああ  
 のいのち  
 のいのち  
 のいのち  
 のいのち  
 のいのち  
 のいのち



吉下  
 のいのち  
 のいのち  
 のいのち  
 のいのち



あはれなるくさの  
せまきくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの

あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの

あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの

あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの

# 柳下亭種員稿

あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの

あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの  
あはれなるくさの

# 梅蝶樓國貞画











下せざるは  
 これかへらぬと  
 下せざるは  
 これかへらぬと  
 下せざるは  
 これかへらぬと

下せざるは  
 これかへらぬと

物  
 あらり  
 ざす  
 ねど  
 せひそ  
 のあぶれ  
 せらむ  
 せらむ  
 せらむ



中  
 あらり  
 しん  
 せらむ  
 うん  
 えん

二十  
 あらり  
 ひて  
 うん  
 つら  
 ぶら  
 の  
 せら  
 む  
 の  
 せら  
 む

下せざるは  
 これかへらぬと

下せざるは  
 これかへらぬと





八十一編



さくく  
さくく  
さくく  
さくく

◇おののめも  
うらみのめも  
ねまぬきのめも  
まをまをまをまを  
さるまをまをまをまを  
ねまぬきのめも  
それをしるまをまを

⊗うけせん  
おののめも  
まをまを

おののめも  
まをまを  
まをまを  
まをまを

四



おののめも  
まをまを  
まをまを  
まをまを

おののめも  
まをまを  
まをまを  
まをまを

八十一編

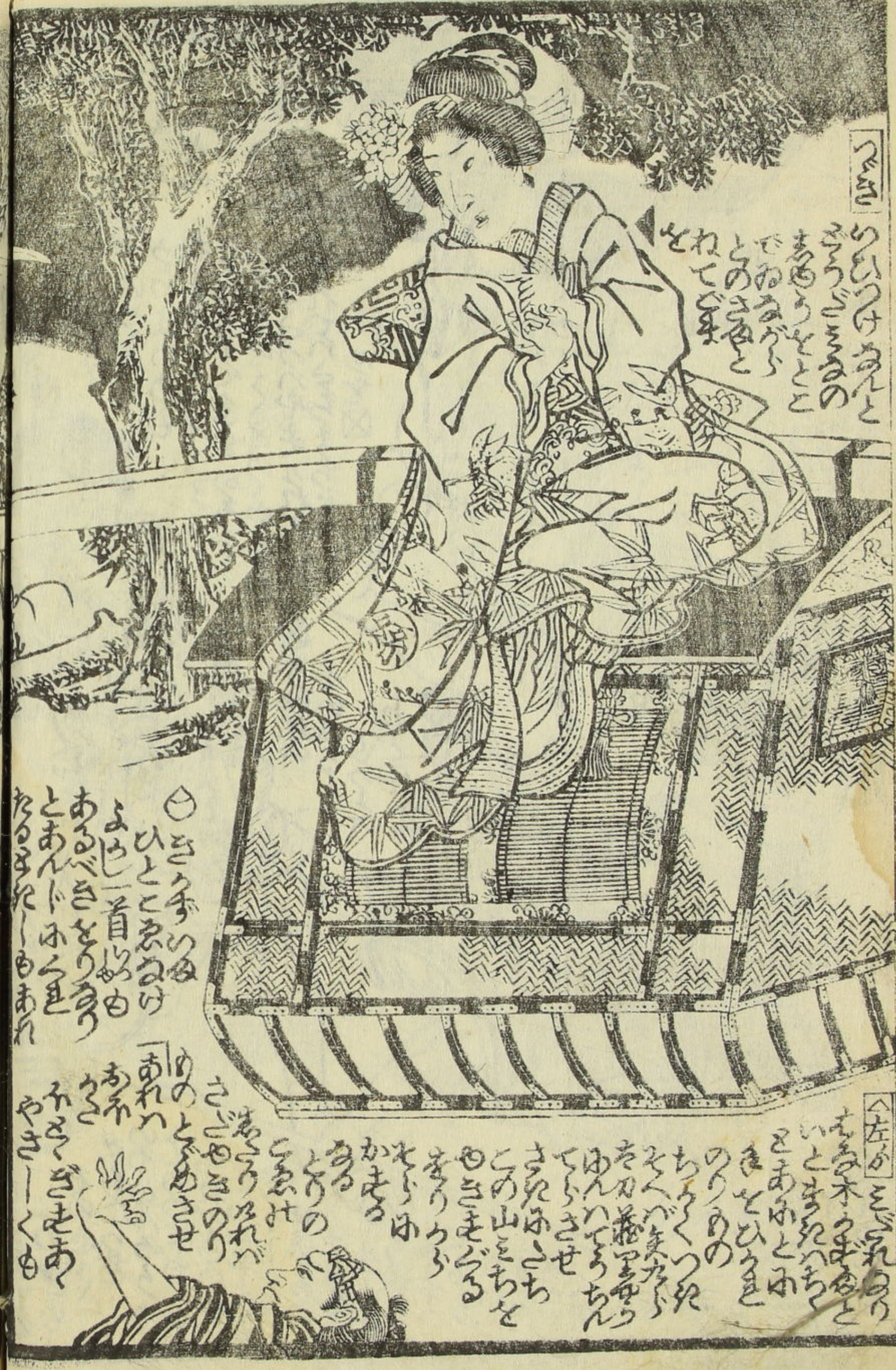
八十一編



〆さる  
 のやうなり  
 きくくとも  
 こつうふふ  
 こつうふふ  
 やらうじやあいら  
 たてしやあいら  
 かつてまごのおき  
 ひとりひとのたけ  
 かくねつふたをく  
 れいあぬこのつるめ  
 こつうふふあれとあ  
 やさたごりやあゆ  
 うい／＼とのさあのみ  
 ろくもあつあつあ  
 あるといささ／＼

〆水のさ  
 かくまごつうのつ  
 まちあひつちうへ  
 のいあひせこつう  
 かくつてあともせ  
 〆かく／＼あうねさ  
 〆あせん／＼あうね  
 〆あせん／＼あうね

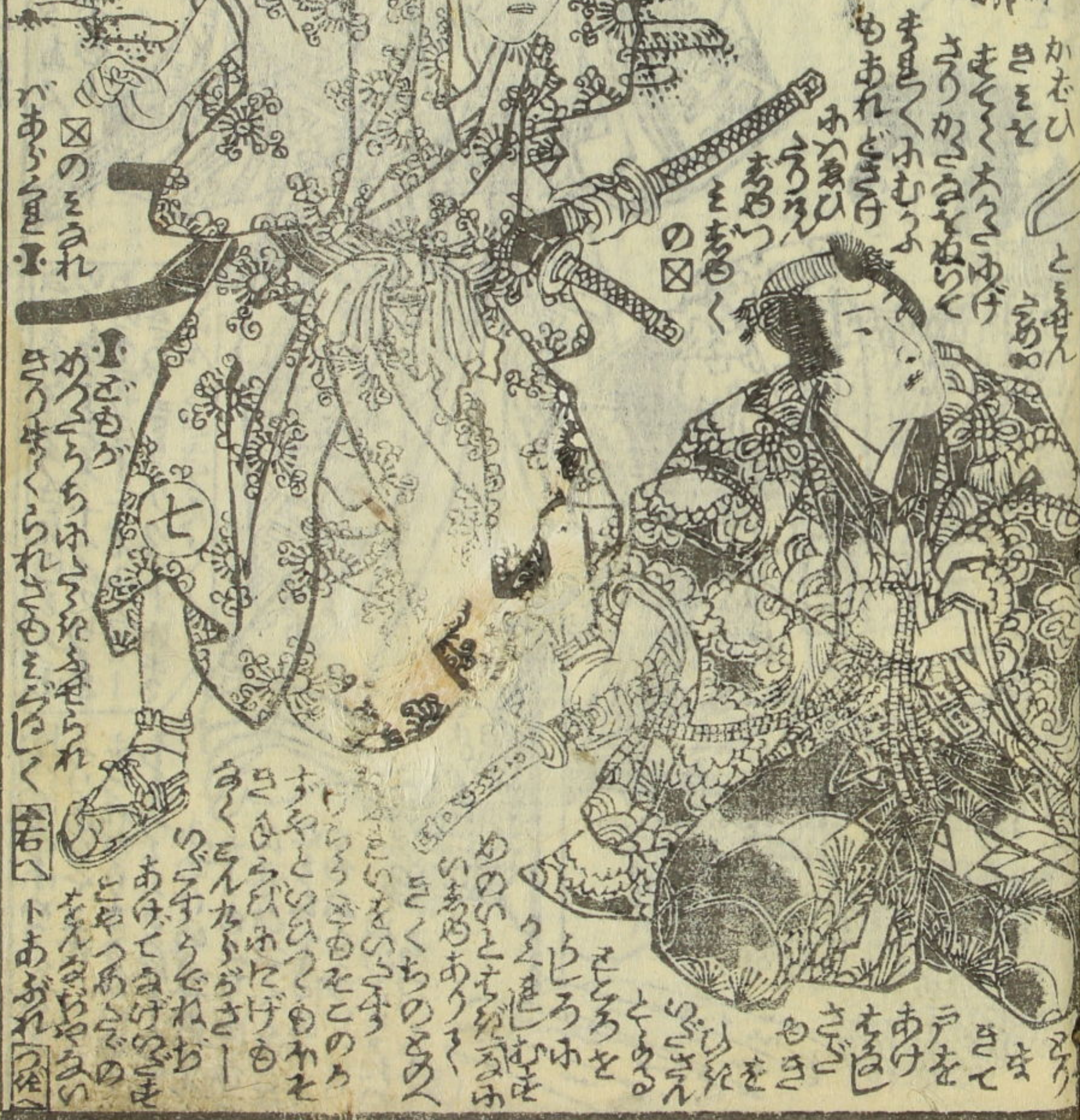
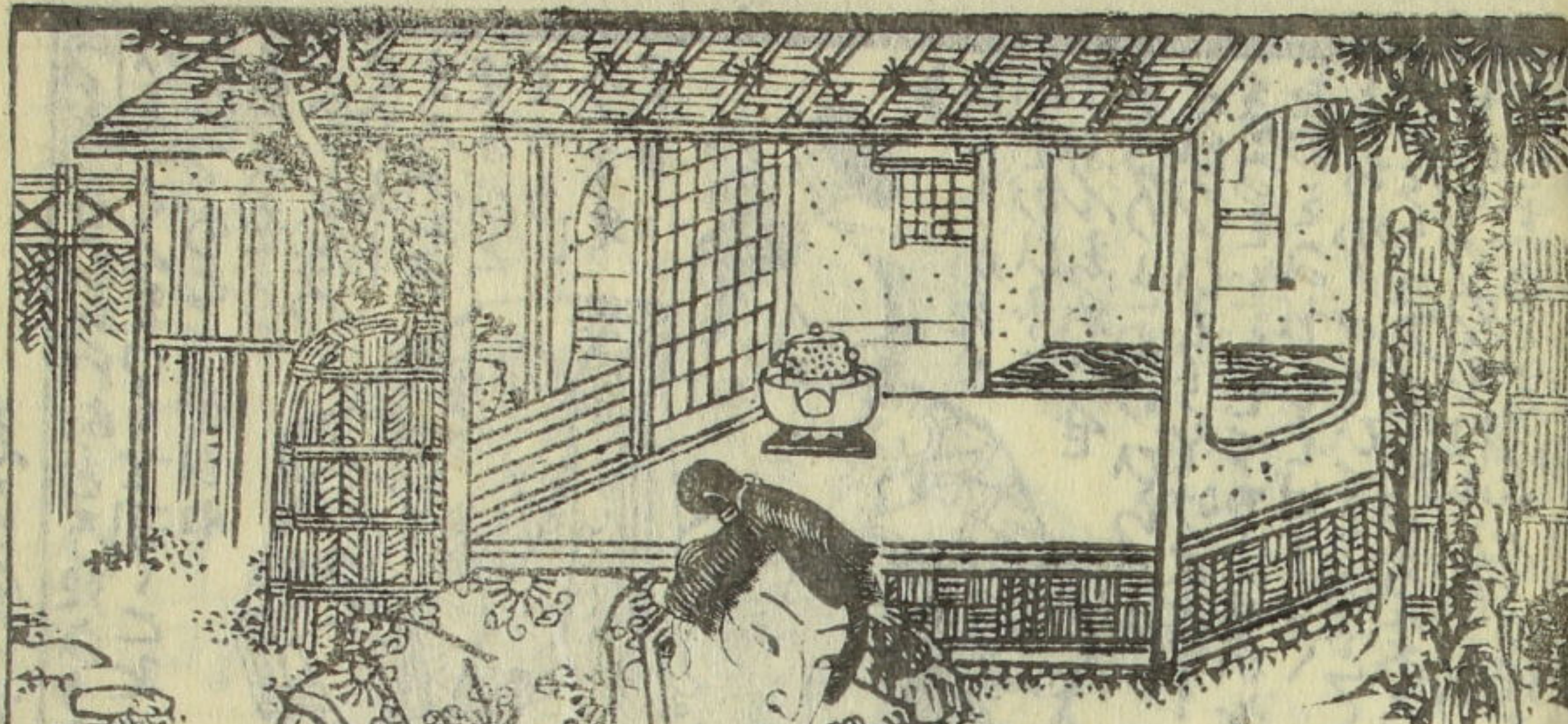
〆あせん／＼あうね  
 〆あせん／＼あうね  
 〆あせん／＼あうね



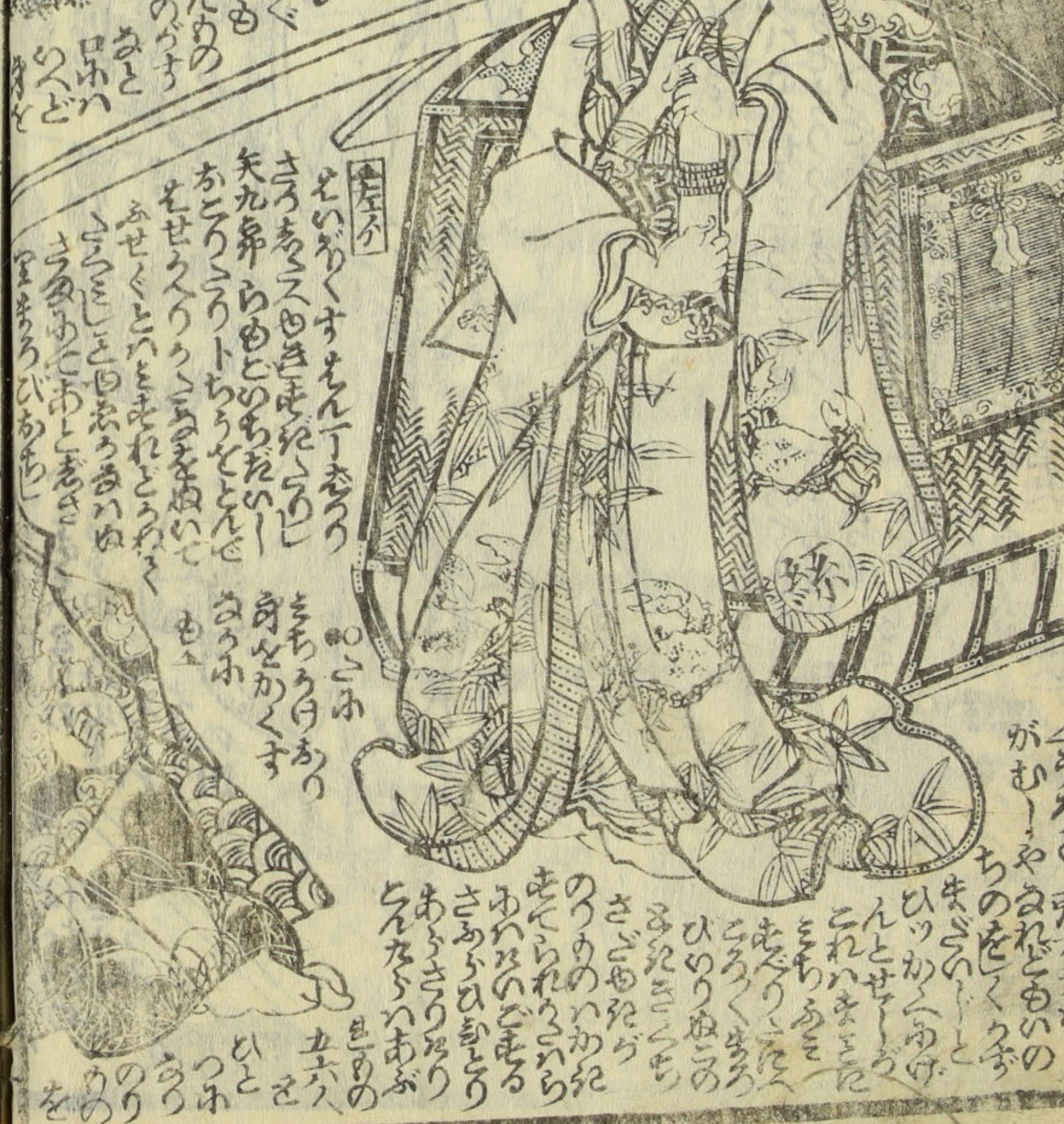
〆さる  
 のやうなり  
 きくくとも  
 こつうふふ  
 こつうふふ  
 やらうじやあいら  
 たてしやあいら  
 かつてまごのおき  
 ひとりひとのたけ  
 かくねつふたをく  
 れいあぬこのつるめ  
 こつうふふあれとあ  
 やさたごりやあゆ  
 うい／＼とのさあのみ  
 ろくもあつあつあ  
 あるといささ／＼

〆水のさ  
 かくまごつうのつ  
 まちあひつちうへ  
 のいあひせこつう  
 かくつてあともせ  
 〆かく／＼あうねさ  
 〆あせん／＼あうね  
 〆あせん／＼あうね

〆あせん／＼あうね  
 〆あせん／＼あうね  
 〆あせん／＼あうね



Vertical text on the far left margin of the left page.



Vertical text on the far left margin of the right page.

Vertical text on the far right margin of the right page.







あらしの井一編  
 今うのしほりとまねが女にけあは  
 今うのしほりとまねが女にけあは  
 今うのしほりとまねが女にけあは

三十一のあや  
 のあや  
 のあや

あらしの井一編  
 あらしの井一編  
 あらしの井一編

あらしの井一編  
 あらしの井一編  
 あらしの井一編

あらしの井一編  
 あらしの井一編  
 あらしの井一編

世間漸く小利根あり人心も切急あや三十一字より發句が流行  
 浄瑠理や長唄より小令で元々酒も喫む長柄の鉞子八住古よ  
 里頸の短い陶壺が當世百日紅ハ観る人多く櫻七日八昼夜戦蕩さ  
 ううと思へばさうでもねく其三月の遅日と壽命の長き小飽はやく笑話  
 も續物語合巻勿論編數を嗣ね妙々といそれね時勢八百屋  
 の椽下さねど長いも或ハ短いも其車により物ふよゆと  
 赤間の口画み因て出す格紋の硯石その壽も世をめぐ  
 計るといふに肖り未永く御高評あざりはとあるが  
 中にも此白縫命あざりて骨折し故人ハ万客もあざりとの

辛酉新販

柳下亭種員

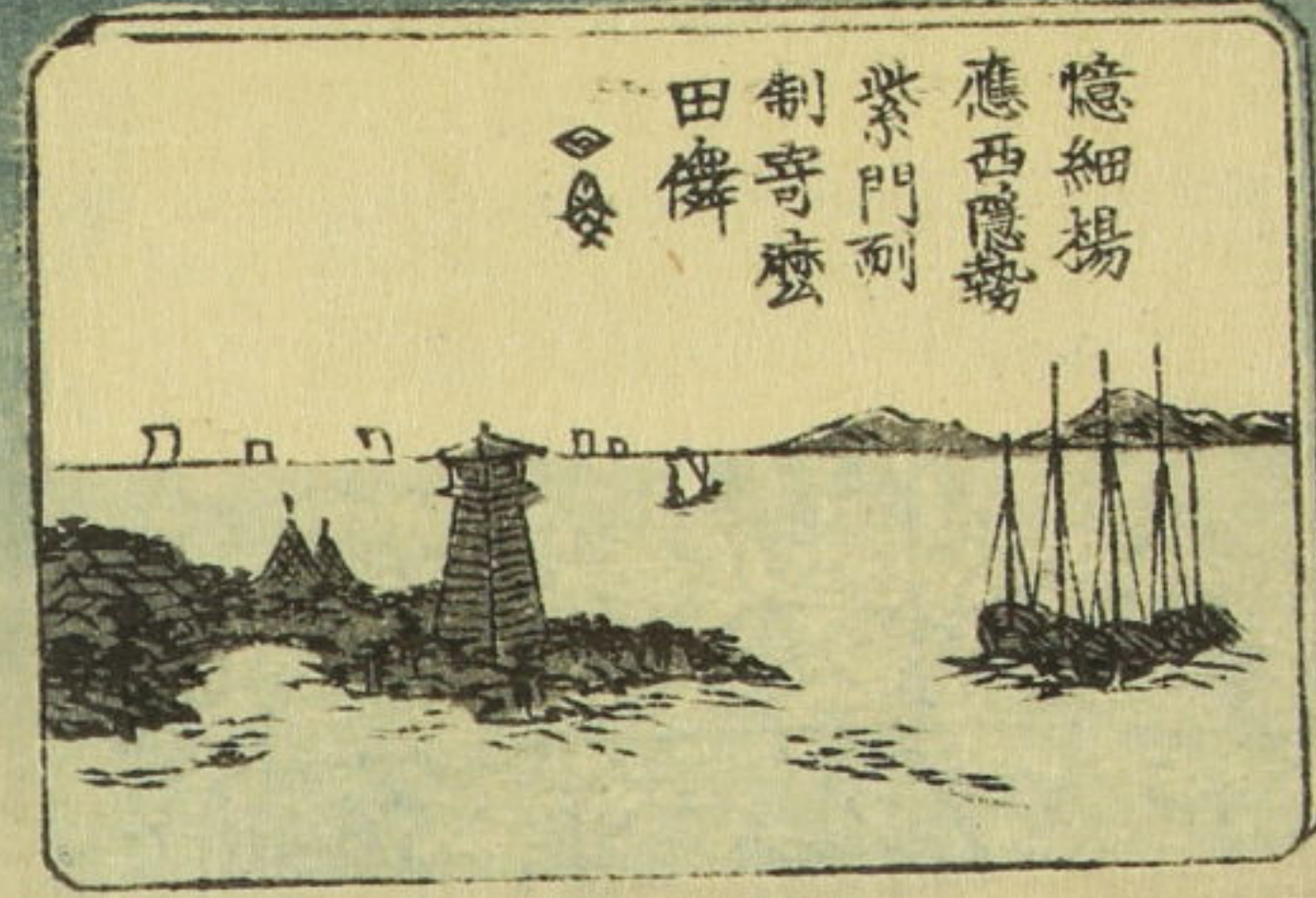


あらしの井一編

長門國下関  
 稻荷町  
 遊君揚羽



應西應揚  
 紫門前  
 制寄慶  
 田儂



三笠山  
 伊達五郎



三笠山

第八十回



あつちのまぢり  
 まんぢくはこれ  
 のひんぎのなるもの  
 ざるものふもあつち  
 いあしとるあつち  
 これのんごのあつちのふ  
 なさるあつち  
 うすあつち  
 りつあつち  
 うすあつち  
 うすあつち  
 うすあつち  
 うすあつち

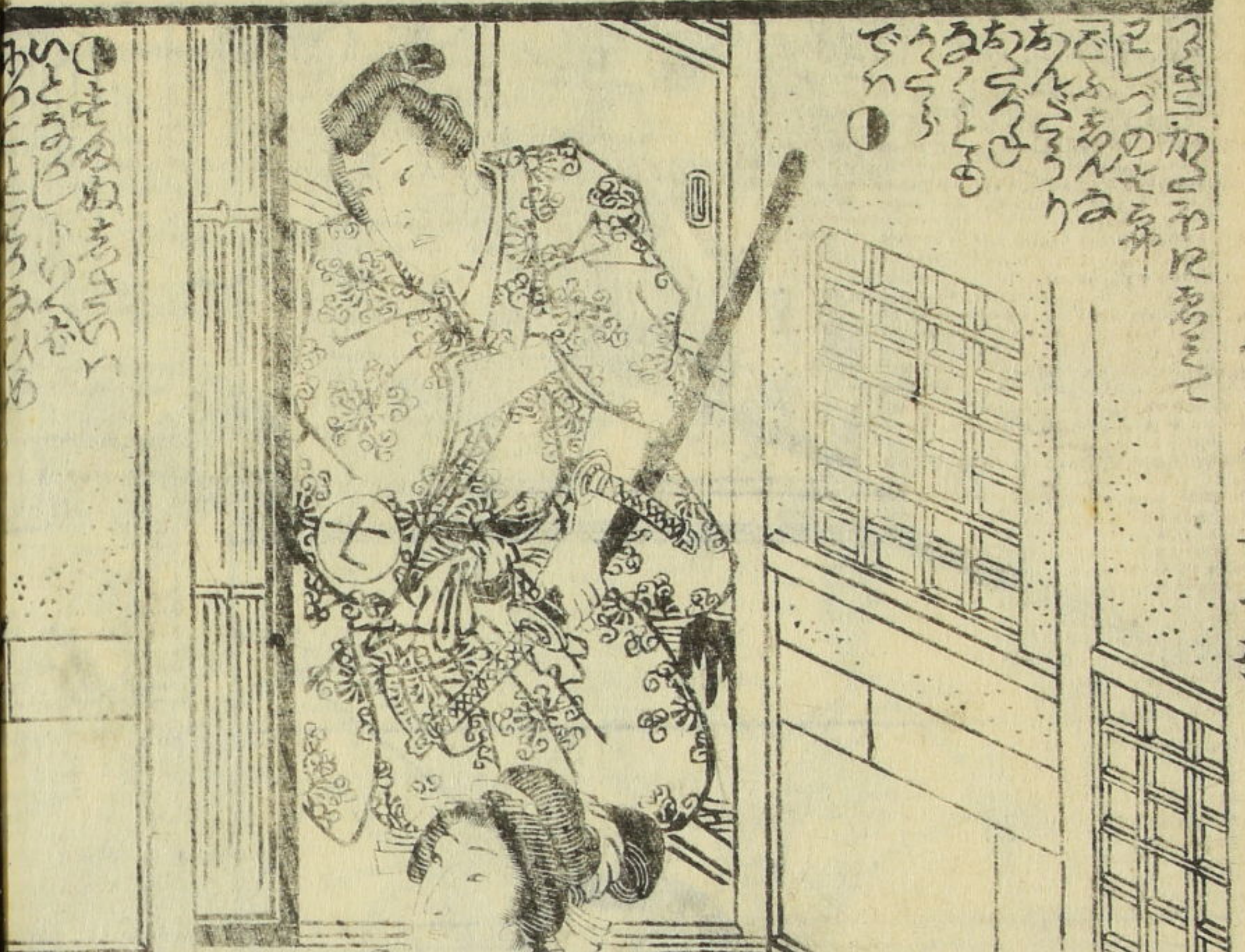


菊地 右衛門 佐助  
 あつちのまぢり  
 まんぢくはこれ  
 のひんぎのなるもの  
 ざるものふもあつち  
 いあしとるあつち  
 これのんごのあつちのふ  
 なさるあつち  
 うすあつち  
 りつあつち  
 うすあつち  
 うすあつち  
 うすあつち  
 うすあつち

第八十回



巡通壹體  
 この...  
 あくあのやあうげの  
 きうそく...  
 あとのゆくじま  
 まうのうすちあも  
 つくぬた女もま  
 つりや  
 左の...  
 右の...  
 月の...  
 せし...  
 ちの...

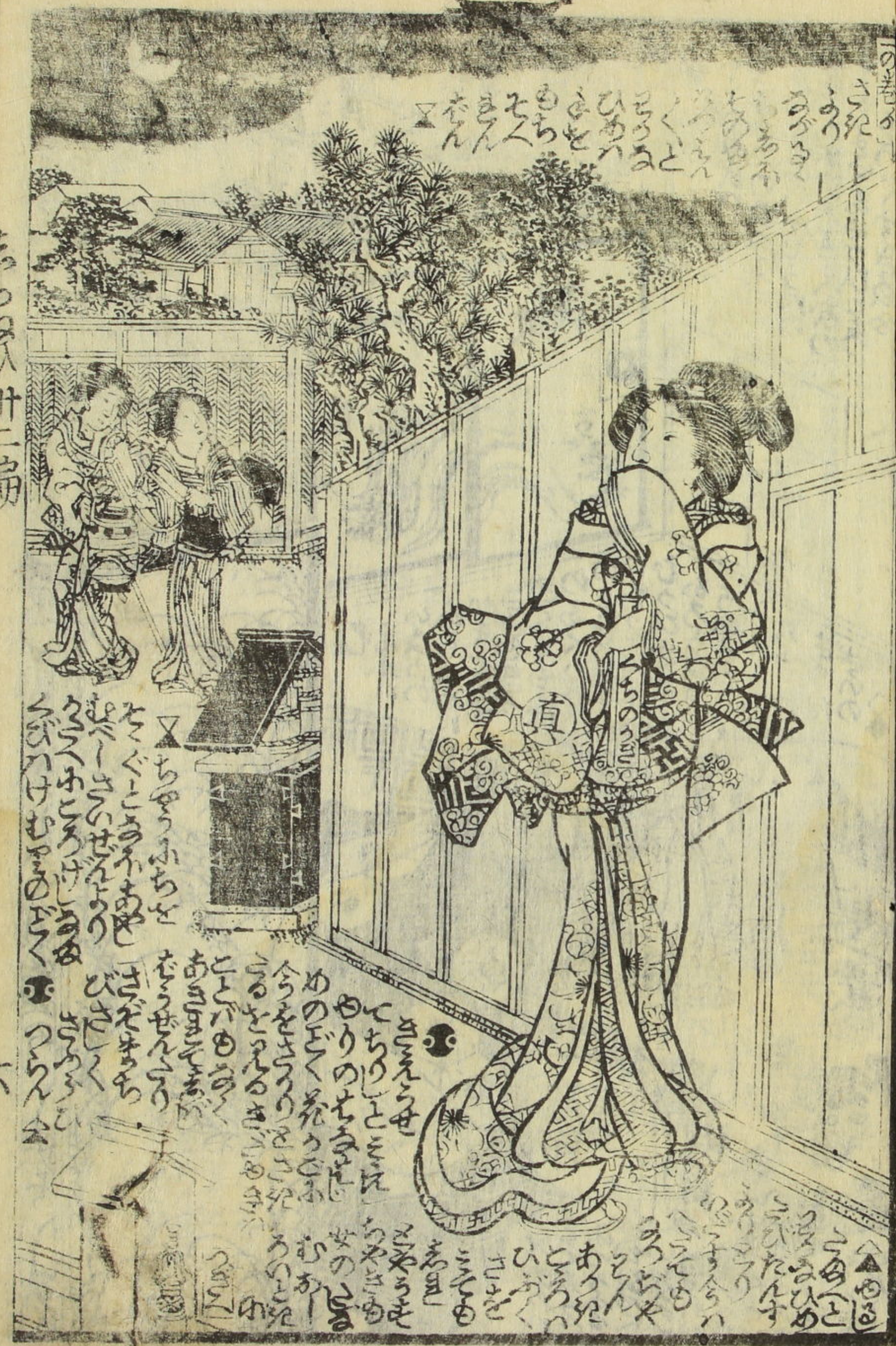


巡通壹體  
 この...  
 あくあのやあうげの  
 きうそく...  
 あとのゆくじま  
 まうのうすちあも  
 つくぬた女もま  
 つりや  
 左の...  
 右の...  
 月の...  
 せし...  
 ちの...

巡通壹體  
 入什一

巡通壹體  
 入什一





三十二番  
 真  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと

ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと

ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと

ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと



三十三番

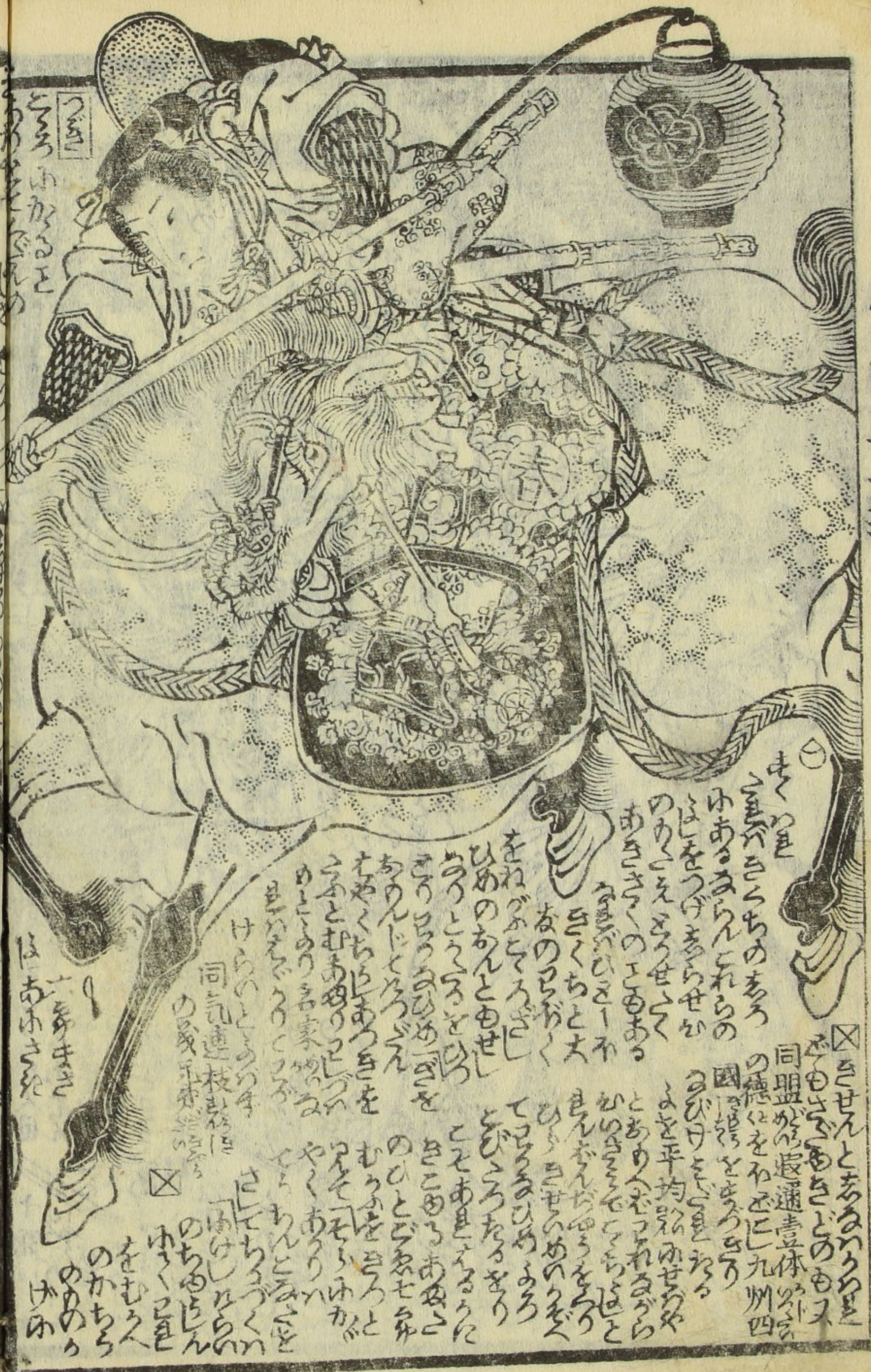
ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと

ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと  
 ありふりたつと









Handwritten text in vertical columns, likely commentary or a narrative related to the illustration. The text is written in a cursive style.



三十一

Handwritten text on the left side of the bottom illustration.

三十一







此のちのむせいのめいけいなるて  
 こころのあやののふさあつひ  
 やとあどろけをそくあのもめ  
 こせだをゆづうせうりんご  
 こころのあやののふさあつひ  
 やとあどろけをそくあのもめ  
 こせだをゆづうせうりんご

あつたつた  
 こころのあやののふさあつひ  
 やとあどろけをそくあのもめ  
 こせだをゆづうせうりんご

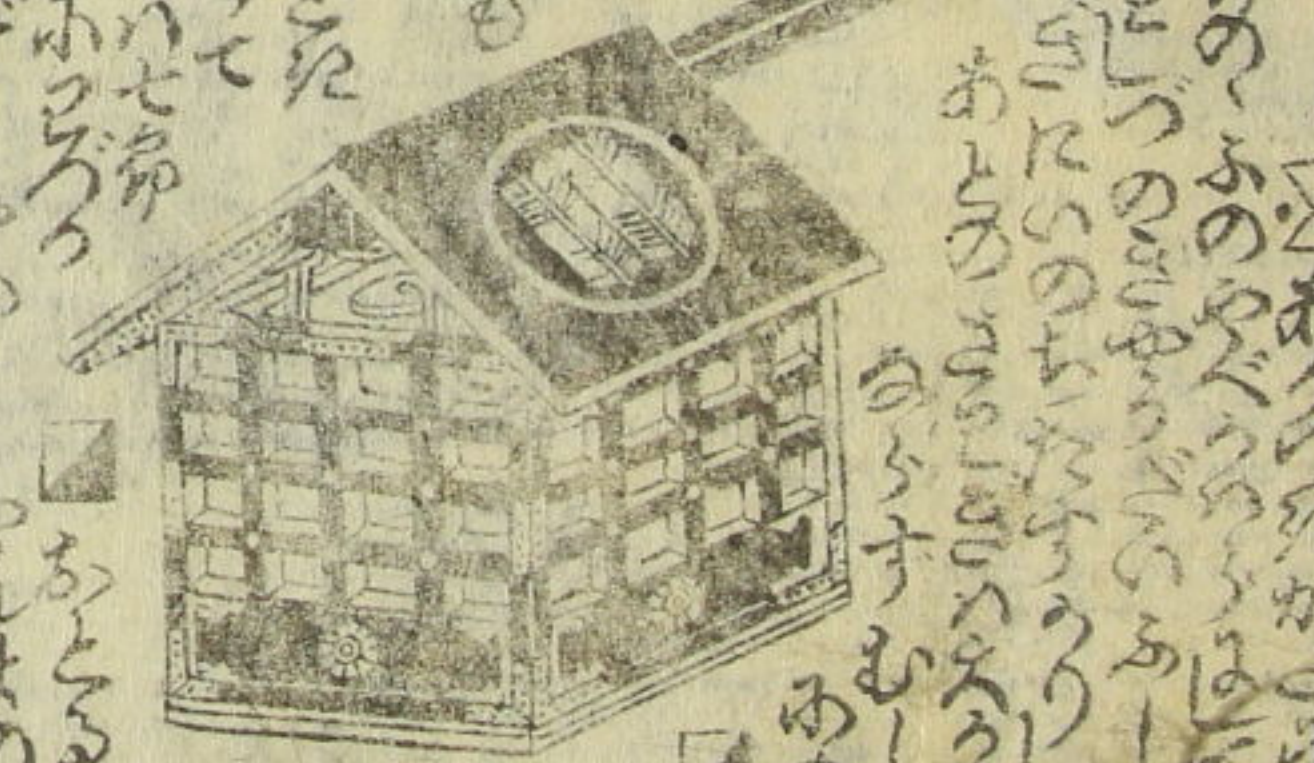
あつたつた  
 こころのあやののふさあつひ  
 やとあどろけをそくあのもめ  
 こせだをゆづうせうりんご

あつたつた  
 こころのあやののふさあつひ  
 やとあどろけをそくあのもめ  
 こせだをゆづうせうりんご

あつたつた  
 こころのあやののふさあつひ  
 やとあどろけをそくあのもめ  
 こせだをゆづうせうりんご

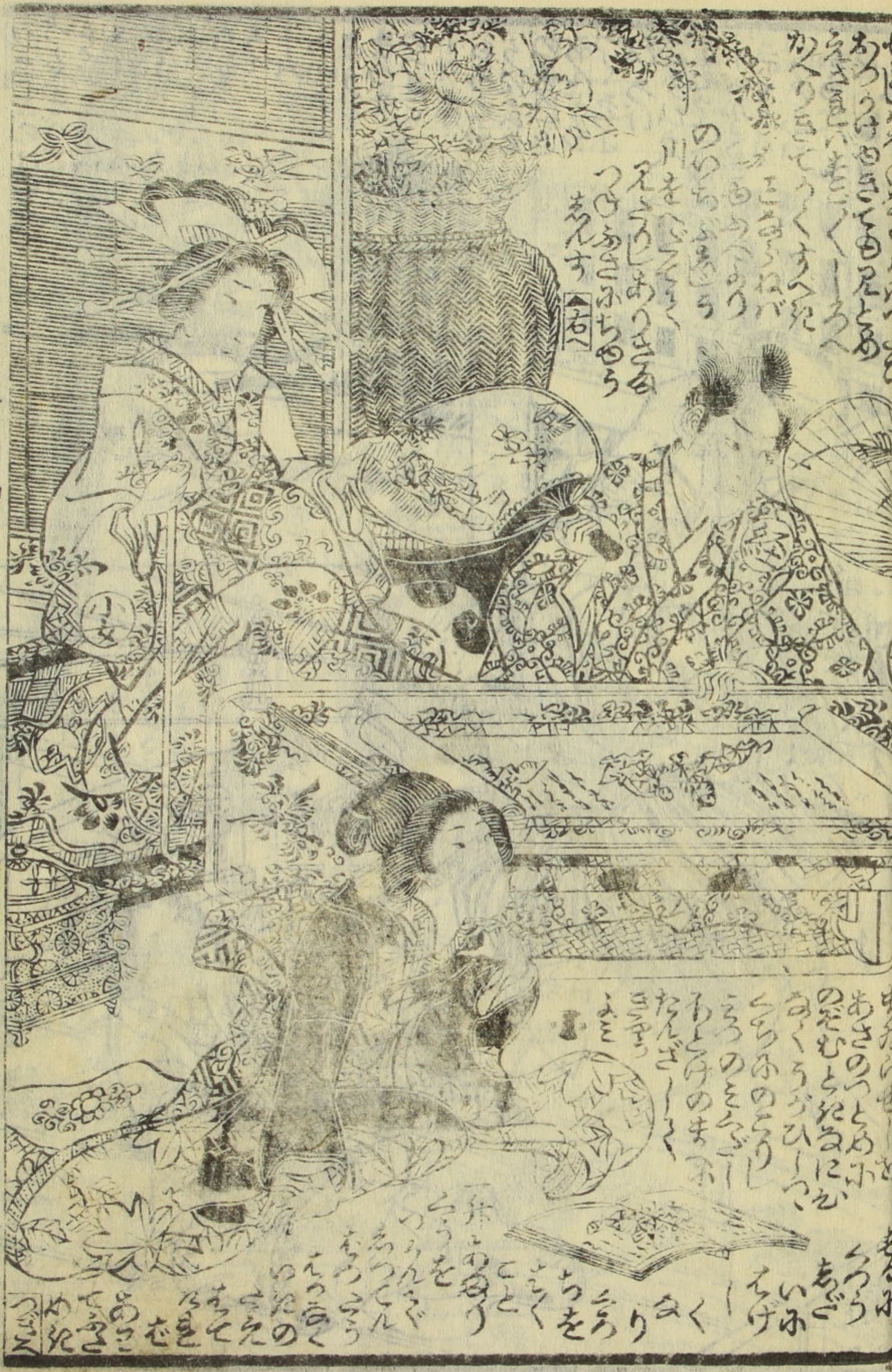
あつたつた  
 こころのあやののふさあつひ  
 やとあどろけをそくあのもめ  
 こせだをゆづうせうりんご

あつたつた  
 こころのあやののふさあつひ  
 やとあどろけをそくあのもめ  
 こせだをゆづうせうりんご



あつたつた  
 こころのあやののふさあつひ  
 やとあどろけをそくあのもめ  
 こせだをゆづうせうりんご

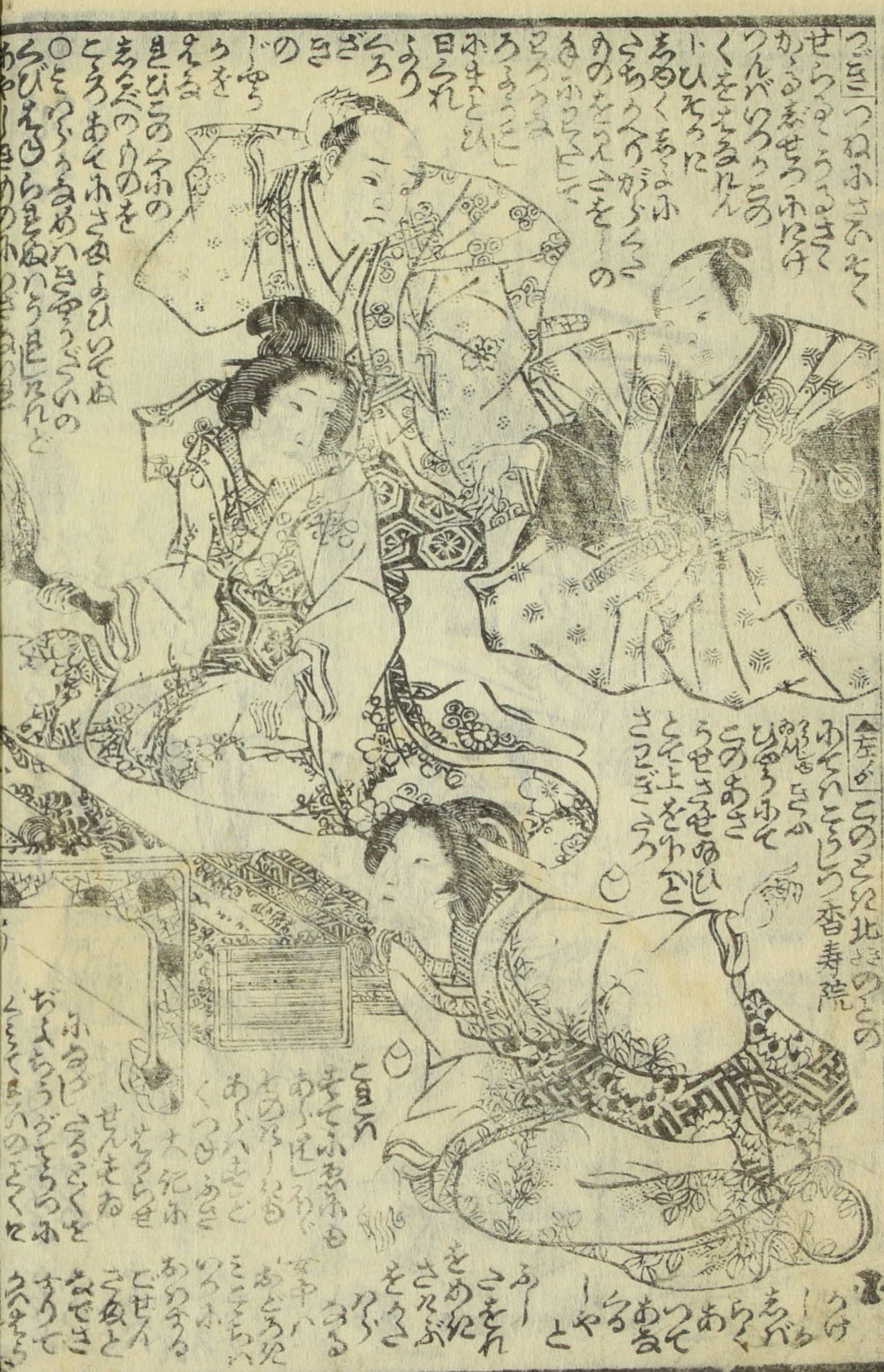
あつたつた  
 こころのあやののふさあつひ  
 やとあどろけをそくあのもめ  
 こせだをゆづうせうりんご



あつたけはくまももろとめ  
 ろとせきもくくくくくくく  
 かのついでくくくくくく  
 ろとせきもくくくくくく

あさのつとめい  
 のまむとねるにか  
 めくろくひひく  
 つらめのこのり  
 ろのそくし  
 ちのこのまお  
 わんざーく  
 ひく

若のなじん二編



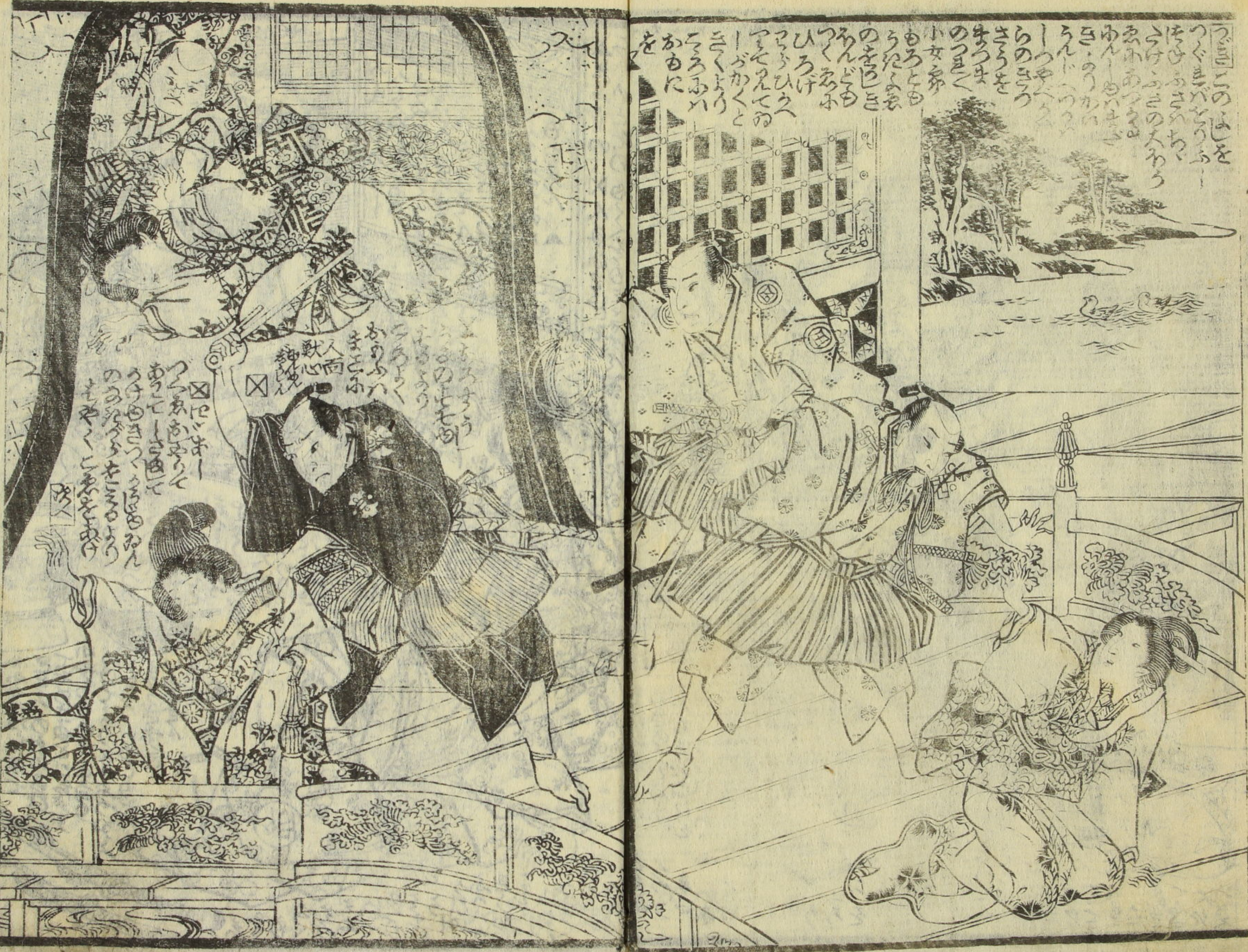
つとねふはらぎ  
 せらりういそまて  
 かふるせろいはけ  
 つんべつうの  
 くをまらせん  
 トひそらに  
 ちやくあはく  
 ちやくあはくがらう  
 ののをいこそ  
 ろをうま  
 ちやくあはく  
 ちやくあはく

あさのつとめい  
 のまむとねるにか  
 めくろくひひく  
 つらめのこのり  
 ろのそくし  
 ちのこのまお  
 わんざーく  
 ひく

若のなじん二編

あつたてふし

ついでにのしを  
つぐまはなりふ  
ほしふさのち  
うけふさの大わう  
あつたてふし  
ゆんいふのま  
ふのりか  
らんいふ  
らつてふ  
さつてふ  
まつてふ  
のつてふ  
小女系  
もろとも  
うたふ  
のきじ  
あんども  
つくあふ  
ひろげ  
まひえ  
まをえてお  
いがかくと  
まより  
こふふ  
をかた



あつたてふし

一







〇かへりてあち  
 らのそとにさし  
 らるるに  
 〇かへりてあち  
 らのそとにさし  
 らるるに  
 〇かへりてあち  
 らのそとにさし  
 らるるに



元仁元年甲申  
 歳次龍集  
 光珠山檢筆禪  
 世五世現傳

〇かへりてあち  
 らのそとにさし  
 らるるに  
 〇かへりてあち  
 らのそとにさし  
 らるるに



〇かへりてあち  
 らのそとにさし  
 らるるに  
 〇かへりてあち  
 らのそとにさし  
 らるるに

〇かへりてあち  
 らのそとにさし  
 らるるに  
 〇かへりてあち  
 らのそとにさし  
 らるるに

〇かへりてあち  
 らのそとにさし  
 らるるに

〇かへりてあち  
 らのそとにさし  
 らるるに



Handwritten text in a cursive style, likely a preface or introductory text, located at the top of the left page.



Handwritten text at the bottom of the left page, continuing the narrative or providing commentary on the illustration.

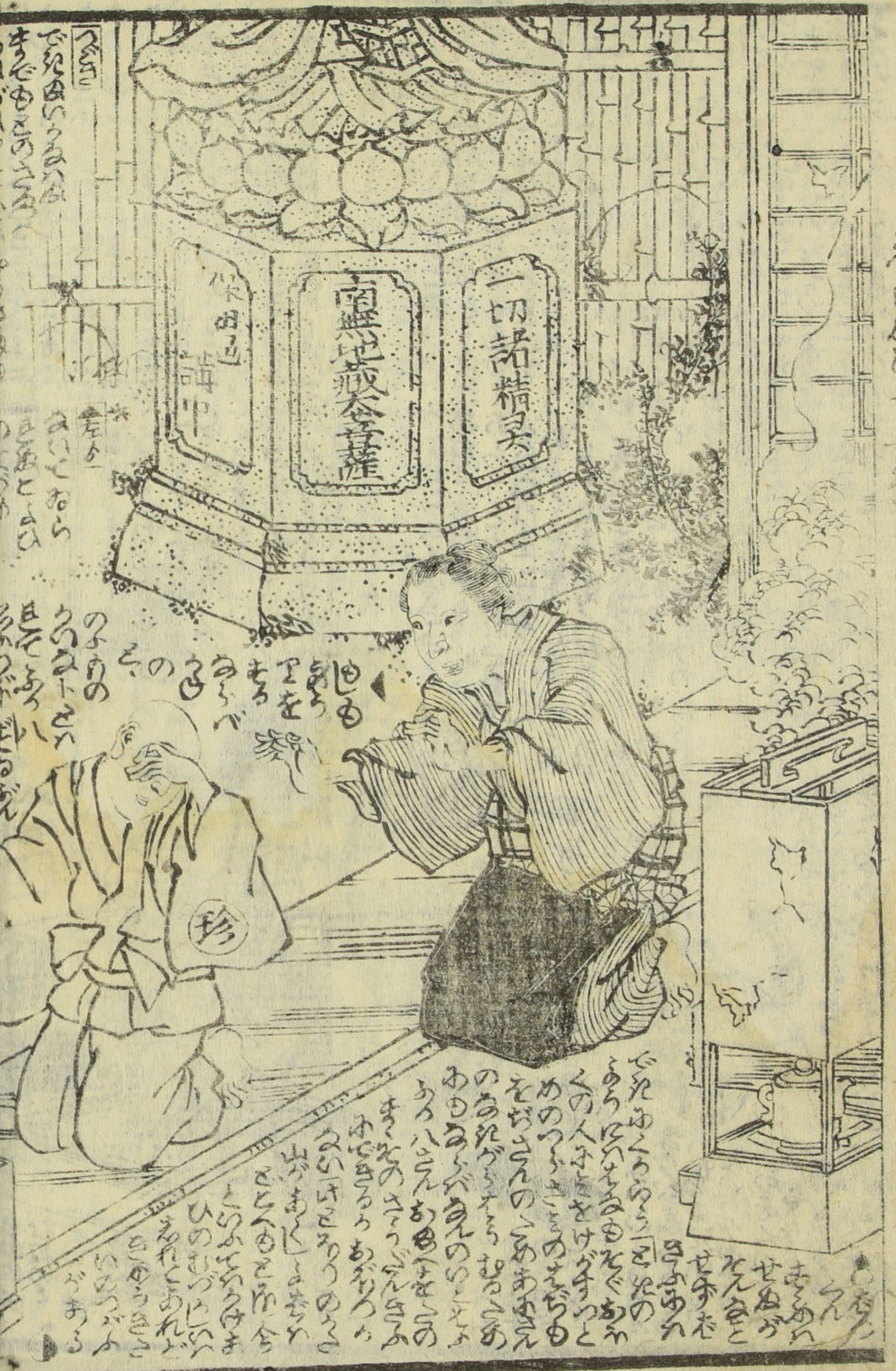
Handwritten text at the top of the right page, continuing the narrative.



Handwritten text at the bottom of the right page, concluding the narrative or providing commentary.



Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the illustration on the left page.



Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the illustration on the right page.



柳亭種彦校

柳下亭種員稿

梅蝶樓國貞画

Handwritten text in the upper right corner, likely a preface or commentary related to the illustration.

Main body of handwritten text on the left page, containing various entries and notes, including chapter numbers like '三十六編' and '三十七編'.

板元菊壽堂小代り、校者柳亭種彦述



福

